



令和 5（2023）年度
事業報告書



「知」をつなぐ。
「未来」を創る。

学校法人金井学園



I・法人の概要

1. 建学の精神	3
2. 学校法人の沿革	4
3. 設置する学校・学部・学科等	7
4. 学校・学部・学科等の学生・生徒数の状況	9
5. 役員（理事・監事）の概要	10
6. 評議員の概要	11
7. 学校長	12
8. 教職員の概要	12
9. 組織図	13

II・事業の概要

1. 第3次中期計画	14
2. 福井工業大学	15
3. 福井工業大学附属福井高等学校・福井中学校	21
4. 福井県医療福祉専門学校	23
5. 福井製菓専門学校	24
6. 法人本部	25
7. 主な事業の目的・計画及びその進捗状況	27
8. 施設等の状況	28

III・財務の概要

1. 決算の概要	
1-1. 資金収支計算書	29
1-2. 事業活動収支計算書	30
1-3. 貸借対照表	31
2. 主な財務比率比較	
2-1. 主な財務比率比較	32
3. その他	
3-1. 有価証券の状況	33
3-2. 借入金の状況	33
3-3. 学校債の状況	33
3-4. 寄付金の状況	34
3-5. 補助金の状況	34
3-6. 収益事業の状況	35
3-7. 関連事業者との取引の状況	35
4. 来年度以降の展望	35



1. 建学の精神

金井 学園 建学の精神

悠久なる日本民族の歴史と伝統とに
根ざした愛国心を^{つちか}培い、節義を重んずる
人格の育成、科学技術の^{けんさん}研鑽に努め、
以て人類社会の福祉に貢献する。



2. 法人の沿革 (令和5年5月1日現在)

昭和 25 年 4 月	福井市豊島上町 93 番地に中学校卒業を入学資格とする（2 年制）と専科（夜間 1 年制）を有する北陸電気専門学校を創設
27 年 4 月	本校を 3 年制とし、高校教科書による単位修得に改める
27 年 11 月	生徒数の増加及び実験室等の整備のため福井市明里町 29 番地に移転
33 年 4 月	建設科を増科
34 年 2 月	学校法人金井学園創立認可
34 年 4 月	福井実業高等学校として発足 学校教育法に規定する工業課程の高等学校として電気科・建設科を置く
34 年 11 月	福井市東明里町 20 番地に校舎新築移転
35 年 4 月	福井実業高等学校に生活科学科(女子)増科
36 年 4 月	福井実業高等学校に電気通信科増科
36 年 11 月	福井実業高等学校同科廃止
37 年 4 月	福井実業高等学校に電子科・機械科増科
37 年 12 月	福井短期大学設置認可
38 年 4 月	福井短期大学(電気科)開学
39 年 4 月	福井短期大学に機械・家政科増科 教職課程設置
40 年 2 月	福井工業大学設置認可
40 年 4 月	福井工業大学(電気工学科・機械工学科)開学
40 年 4 月	福井短期大学家政科を独立して、福井女子短期大学と改称
40 年 4 月	福井実業高等学校の生活学科を普通科(女子)と改称
40 年 10 月	福井実業高等学校を福井高等学校と改称
41 年 4 月	福井工業大学に建設工学科増科 教職課程設置
41 年 4 月	福井女子短期大学家政科を家政・食物栄養に専攻分離
41 年 4 月	福井高等学校に普通科(男子)増科
42 年 4 月	福井高等学校にデザイン科を増科 電子科を電気科に統合 建築科と改称し、建築・土木の 2 コースとする
43 年 4 月	福井高等学校に衛生看護科増科
44 年 4 月	福井高等学校に自動車整備科増科 電気科にテレビコース開設
45 年 4 月	福井女子短期大学の家政専攻を家政経済専攻と改称
47 年 4 月	福井高等学校に航空機整備科を増科
48 年 4 月	福井工業大学に応用物理学科増科
52 年 8 月	福井女子短期大学廃止
53 年 2 月	福井高等学校を福井工業大学附属福井高等学校と改称



54 年 4 月	福井工業大学応用物理学科の改称を環境安全工学科に変更
55 年 4 月	フクイモダンデザイン専修学校設置
58 年 4 月	福井工業大学機械工学科を機械工学専攻・電子工学専攻に専攻分離
60 年 4 月	福井工業大学に大学院（工学研究科）設置
61 年 4 月	福井工業大工学部期間を付した定員増(平成 11 年迄)
62 年 4 月	福井工業大学に経営工学科設置
63 年 4 月	福井工業大学附属福井高等学校に商業情報科設置
平成 元年 4 月	福井工業大学附属福井中学校設置
元年 4 月	別科（工学専修科）に土木工学専攻・化学計測専攻・経営情報学専攻を開設
元年 4 月	福井工業大学工学研究科博士課程開設
4 年 4 月	福井産業デザイン専修学校の高等課程を廃止し、商経専門課程を設置
7 年 12 月	福井工業大学に編入学制実施
10 年 4 月	福井工業大学附属福井高等学校に衛生看護専攻科を設置
13 年 4 月	福井工業大学に宇宙通信工学科設置
14 年 4 月	福井工業大学電気工学科を電気電子工学科に名称変更
15 年 4 月	福井産業デザイン専修学校を廃止
15 年 7 月	収益事業の認可
16 年 4 月	福井工業大学経営工学科を経営情報工学科へ名称変更
16 年 4 月	福井工業大学附属福井高等学校に工業科、情報科を設置
17 年 4 月	福井工業大学に原子力技術応用工学科を設置
21 年 4 月	福井工業大学にデザイン学科を設置
22 年 4 月	福井工業大学附属福井高等学校に特別進学科・進学科を設置
23 年 4 月	福井工業大学に産業ビジネス学科を設置
24 年 4 月	福井工業大学建築生活環境学科を設置
27 年 4 月	福井工業大学にスポーツ健康科学部スポーツ健康科学科を設置
27 年 4 月	福井工業大学に環境情報学部環境・食品科学科、同経営情報学科、及び同デザイン学科を設置
27 年 4 月	福井工業大学工学部電気電子情報工学科を電気電子工学科へ、また同建築生活環境学科を建築土木工学科へ名称変更
30 年 4 月	収益事業（若狭町みさき漁村体験施設の指定管理者としての請負業）の認可
令和 2 年 4 月	福井工業大学環境情報学部環境・食品科学科を環境食品応用化学科へ名称変更
3 年 4 月	学校法人新和学園（福井県医福祉専門学校、福井製菓専門学校、福井公務員専門学校）と法人合併



4 年 4 月	福井県医療福祉専門学校に文化教養専門課程日本語学科を設置
4 年 4 月	福井公務員専門学校を廃校
5 年 4 月	福井工業大学学部学科再編(4 学部 8 学科)
5 年 4 月	福井工業大学に経営情報学部経営情報学科設置
5 年 4 月	福井工業大学環境情報学部を環境学部へ名称変更
5 年 4 月	福井工業大学工学部電気電子工学科を電気電子情報工学科へ名称変更
5 年 4 月	福井工業大学環境情報学部経営情報学科学生募集停止



3. 設置する学校・学部・学科等 (令和5年5月1日現在)



福井工業大学

Fukui University of Technology

- 工学部
 - ・電気電子情報工学科 ・機械工学科
 - ・建築土木工学科 ・原子力技術応用工学科
- 環境学部
 - ・環境食品応用化学科 ・デザイン学科
- 経営情報学部
 - ・経営情報学科
- スポーツ健康科学部
 - ・スポーツ健康科学科
- 大学院
 - ・応用理工学専攻（博士前期）
 - ・社会システム学専攻（博士前期）
 - ・応用理工学専攻（博士後期）
 - ・社会システム学専攻（博士後期）



福井キャンパス



あわらキャンパス



福井工業大学附属 福井高等学校

Fukui Senior High School

- 特別進学科
- 進学科
- 衛生看護科
- 衛生看護専攻科



福井工業大学附属 福井中学校

Fukui Junior High School





福井県医療福祉専門学校

Fukui Medical Welfare College

- こども・介護学科
- 医療事務学科
- 日本語学科



福井製菓専門学校

Fukui Confectionery College

- 製菓衛生師科





4. 学校・学部・学科等の学生・生徒数の状況

4-1. 福井工業大学・大学院（令和5年5月1日現在）

（単位：人）

学部	学科	入学定員数	入学者数	現員数	摘要
工学部	機械工学科	80	66	311	
	電気電子工学科	80	80	323	
	原子力技術応用工学科	20	15	98	
	建築土木工学科	70	79	324	
	計	250	240	1,056	
環境学部	デザイン学科	50	44	213	
	環境食品応用化学科	40	22	129	
	経営情報学科	-	-	287	
	計	90	66	629	
経営情報学部	経営情報学科	90	101	101	
	計	90	101	101	
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	70	84	316	
	計	70	84	316	
	合計	500	491	2,102	
工学研究科（博士課程前期）	応用理工学専攻	17	17	26	
	社会システム学専攻	8	2	11	
	計	25	19	37	
工学研究科（博士課程後期）	応用理工学専攻	4	0	3	
	社会システム学専攻	2	5	15	
	計	6	5	18	
	合計	31	24	55	

4-2. 福井工業大学附属福井高等学校・衛生看護専攻科（令和5年5月1日現在）

課程	学科	入学定員数	入学者数	現員数	摘要
全日制課程	特別進学科	120	116	336	
	進学科	360	351	1,029	
	衛生看護科	40	30	117	
	合計	520	497	1,482	
	衛生看護専攻科	40	27	67	
	合計	40	27	67	

4-3. 福井工業大学附属福井中学校（令和5年5月1日現在）

課程	入学定員数	入学者数	現員数	摘要
全日制課程	80	77	209	

4-4. 福井県医療福祉専門学校（令和5年5月1日現在）

課程	入学定員数	入学者数	現員数	摘要
社会福祉専門課程	100	29	58	
商業実務専門課程	40	15	15	
文化教養専門課程	40	17	18	
合計	180	61	91	

4-5. 福井製菓専門学校（令和5年5月1日現在）

課程	入学定員数	入学者数	現員数	摘要
衛生専門課程	20	9	26	

4-6. 学生・生徒総計（令和5年5月1日現在）

	入学定員数	入学者数	現員数
学生・生徒総数	1,371	1,186	4,032



5. 役員(理事・監事)の概要 (令和6年3月31日現在)

定員数 理事 10 名 監事 2 名

役職名	氏名	現職	常勤 非常勤	選任条項	摘要
理事	金井 兼	理事長	常	寄附行為第十二条 第一項第三号	平成4年12月理事就任 平成4年12月理事長就任
理事	松浦 悦郎	常務理事	常	寄附行為第十二条 第一項第二号	平成25年4月理事就任 平成27年4月常務理事就任
理事	掛下 知行	福井工業大学 学長	常	寄附行為第十二条 第一項第一号	平成30年4月理事就任 平成30年4月学長就任
理事	佐々木 栄秀	附属福井高等学校・中学校 校長	常	寄附行為第十二条 第一項第一号	平成31年4月理事就任 令和2年4月附属高校校長・ 附属中学校校長就任
理事	池田 岳史	福井工業大学 副学長	常	寄附行為第十二条 第一項第三号	平成31年4月理事就任 平成29年4月副学長就任
理事	黒川 二二夫	黒川建築設計室代表	非	寄附行為第十二条 第一項第三号	令和4年1月理事就任
理事	井上 毅	弁護士	非	寄附行為第十二条 第一項第三号	平成25年7月理事就任
理事	渡辺 雅之	税理士	非	寄附行為第十二条 第一項第三号	令和2年4月理事就任
理事	道内 由佳里	法人本部 秘書室長	常	寄附行為第十二条 第一項第二号	平成28年4月理事就任 平成28年4月秘書室長就任
理事	藤井 貴広	附属福井高等学校 教頭	常	寄附行為第十二条 第一項第二号	令和2年4月理事就任 平成31年4月附属高校教頭就任
監事	吉田 五衛	無職	非	寄附行為第十三条	令和2年4月監事就任
監事	野村 孟弘	公認会計士	非	寄附行為第十三条	令和2年4月監事就任



6. 評議員の概要 (令和6年3月31日現在)

定員数 21名

役職名	氏名	現職	選任条項	上段: 就任年月日 下段: 重任年月日
評議員(学内)	金井 兼	理事長	寄附行為第二十条 第一項第一号	平成2年7月2日 令和4年8月8日
評議員(学内)	松浦 悦郎	常務理事	寄附行為第二十条 第一項第二号	平成2年7月2日 令和4年8月8日
評議員(学内)	掛下 知行	福井工業大学 学長	寄附行為第二十条 第一項第一号	平成30年4月1日 令和4年4月1日
評議員(学内)	佐々木 栄秀	附属福井高等学校・ 福井中学校校長	寄附行為第二十条 第一項第一号	平成31年4月1日 令和4年4月1日
評議員(学内)	池田 岳史	福井工業大学 副学長	寄附行為第二十条 第一項第一号	平成31年4月1日 令和4年8月8日
評議員(学外)	黒川 二二夫	黒川建築設計室代表	寄附行為第二十条 第一項第一号	令和4年1月24日 令和4年8月8日
評議員(学外)	井上 毅	弁護士	寄附行為第二十条 第一項第一号	平成25年7月2日 令和4年8月8日
評議員(学外)	渡辺 雅之	税理士	寄附行為第二十条 第一項第一号	令和2年4月1日 令和4年8月8日
評議員(学内)	道内 由佳里	法人本部 秘書室長	寄附行為第二十条 第一項第二号	平成28年4月5日 令和4年8月8日
評議員(学内)	藤井 貴広	附属福井高等学校 教頭	寄附行為第二十条 第一項第二号	令和2年4月1日 令和4年8月8日
評議員(学内)	中舎 喜博	福井工業大学事務局 局長	寄附行為第二十条 第一項第二号	令和5年7月19日
評議員(学内)	山田 典孝	福井工業大学事務局次長・ 学務課長	寄附行為第二十条 第一項第二号	令和4年8月8日
評議員(学内)	宮本 由佳子	法人本部総務部長・ 管財課長	寄附行為第二十条 第一項第二号	平成30年4月1日 令和4年8月8日
評議員(学内)	吉村 喜信	福井工業大学非常勤講師	寄附行為第二十条 第一項第二号	平成13年11月26日 令和4年8月8日
評議員(学外)	山田 健治	社会福祉法人 やしろ中央会 理事長	寄附行為第二十条 第一項第三号	昭和49年4月23日 令和4年8月8日
評議員(学内)	金井 兼信	法人本部経営企画部長	寄附行為第二十条 第一項第三号	令和4年8月8日
評議員(学外)	木村 洋子	社会福祉法人 坂井福祉会 理事長	寄附行為第二十条 第一項第四号	令和4年8月8日
評議員(学外)	渡邊 忠造	税理士	寄附行為第二十条 第一項第四号	平成20年4月1日 令和4年8月8日
評議員(学外)	坪川 哲也	株式会社大和印刷所 代表取締役社長	寄附行為第二十条 第一項第四号	令和4年8月8日
評議員(学外)	杉山 聡理	藤島幼稚園園長	寄附行為第二十条 第一項第四号	令和5年7月19日
評議員(学外)	高橋 正恭	(株)C&B 代表取締役	寄附行為第二十条 第一項第四号	平成27年4月1日 令和4年8月8日



7. 学校長 (令和6年3月現在)

学校名	役職名	氏名
福井工業大学	学長	掛下 知行
福井工業大学附属福井高等学校	校長	佐々木 栄秀
福井工業大学附属福井中学校		
福井県医療福祉専門学校	校長	栗原 美幸
福井製菓専門学校		

8. 教職員の概要 (令和5年5月1日現在)

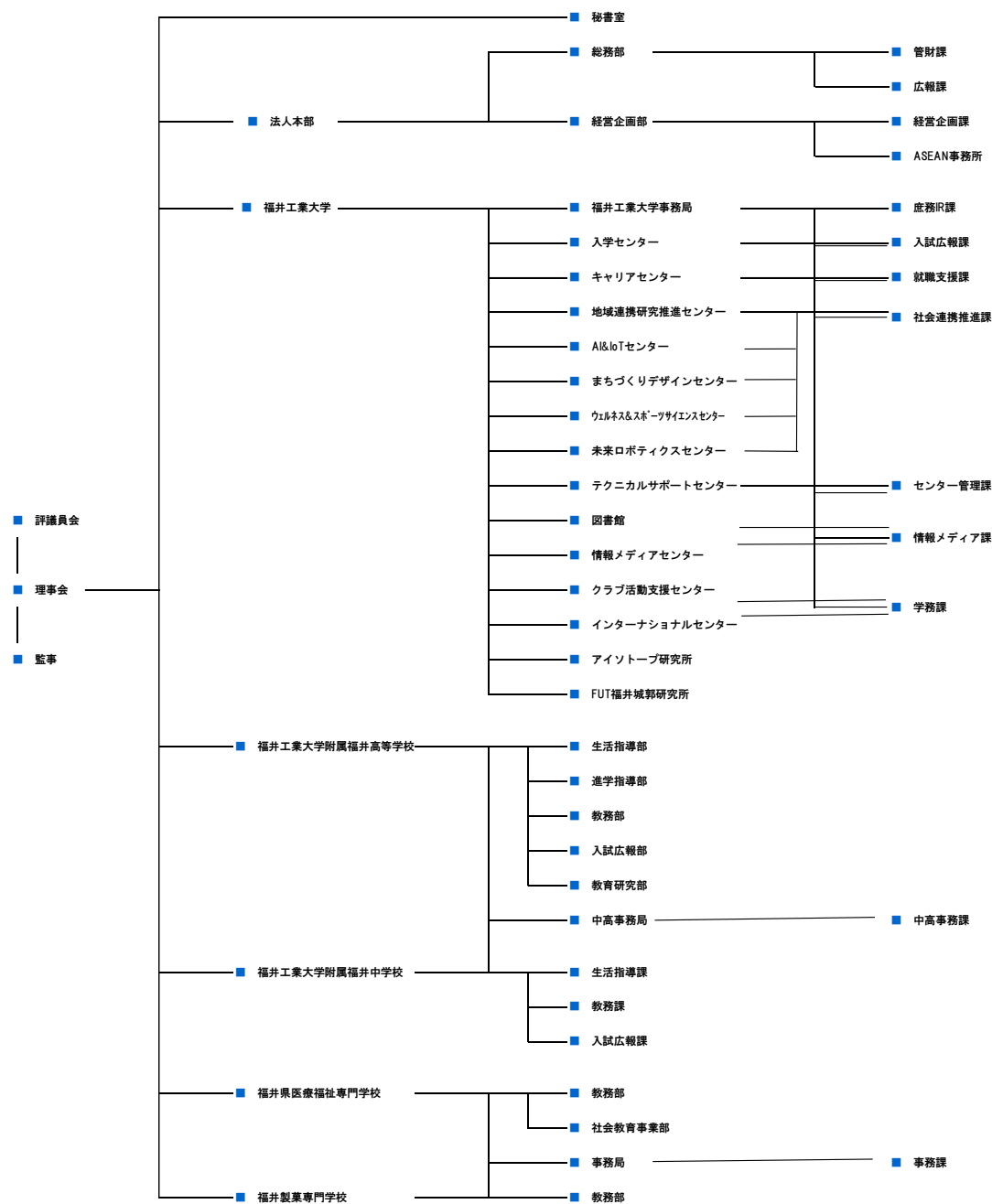
	教員		職員	
	本務	兼務	本務	兼務
法人本部			4	8
福井工業大学	100	67	77	8
福井工業大学附属福井高等学校	73	126	23	6
福井工業大学附属福井中学校	16	15	7	0
福井県医療福祉専門学校	17	54	6	2
福井製菓学校	3	12	0	1
合計	209	274	117	25

「知」をつなぐ。
「未来」を創る。





9. 組織図 (令和6年3月31日現在)



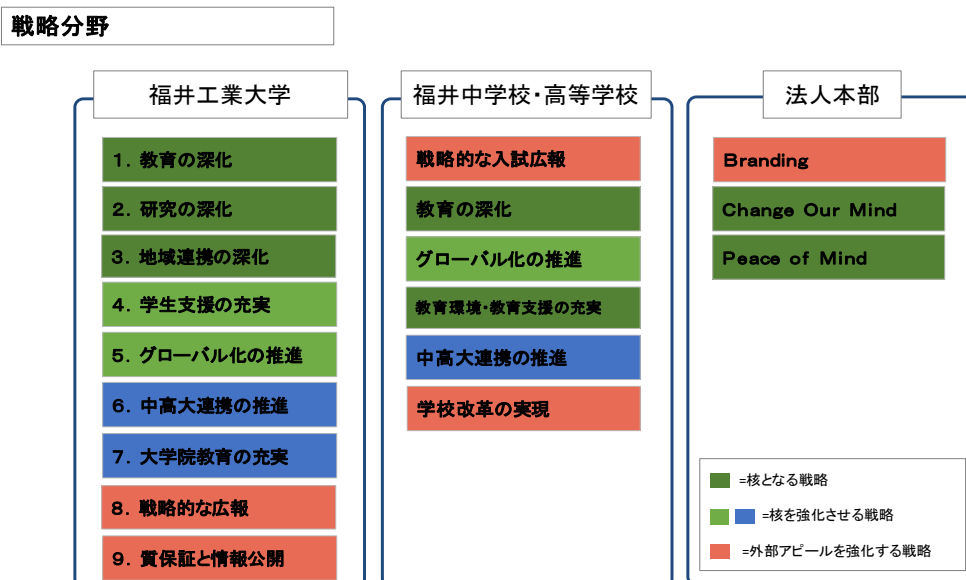
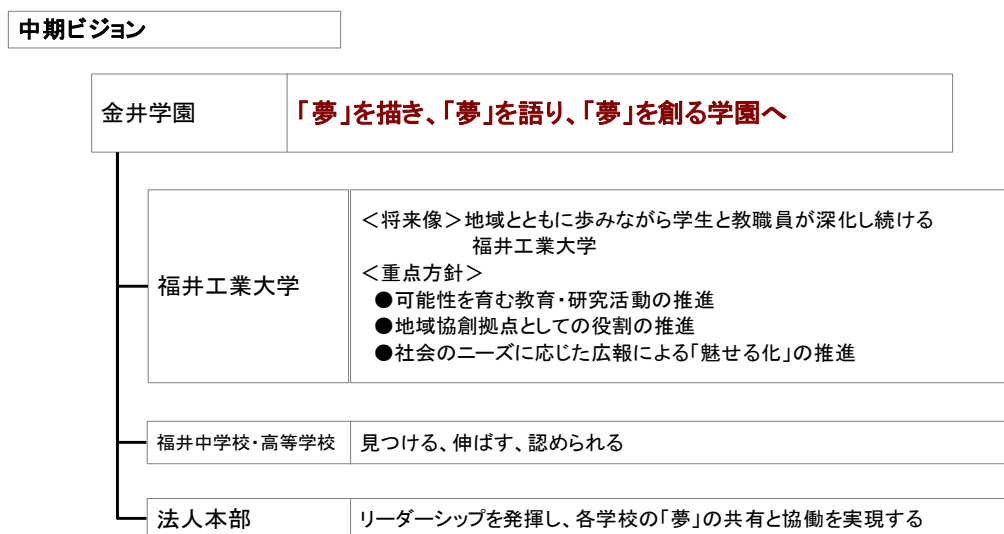


1. 第3次中期計画

第3次中期計画（2019年度～2024年度）

第2次中期経営計画に続く第3次中期計画「“夢”を描き“夢”を語り“夢”を創る学園へ」を中期ビジョンとして掲げ実行します。

以下の【戦略分野】からなり、各学校の行動目標は、次のとおりです。





1. 福井工業大学

教育の深化

1. 学生の主体的な学びの強化

教育の満足度向上には、在学時の学業や学生生活において「成長実感」「成功体験」「達成感」を高めることが重要であると考え、令和5年度に、それらを可視化し、関連する活動の振り返りを促すシステム「FUT学生ポートフォリオ」を構築しました。「FUT学生ポートフォリオ」により、学生は成績データに基づき算出されたディプロマポリシー項目の達成度の他、学期ごとに自身が設定した目標の到達状況、クラブ活動や資格取得などの課外活動の記録、学生生活で身につけたスキルの記述等、大学時代の成果を多方面から確認できるようになります。構築されたポートフォリオシステムは令和6年度より本格運用を予定しております。

2. 教育改善の推進

FD・SD推進委員会では、大学運営に関する喫緊の課題を取りあげ、教職協働でその解決の方策を探る機会を設けています。

令和5年度の「教職員説明会」では、掛下学長が「大学を取り巻く状況と本学の重要課題」と題して、本学の掲げる理念を踏まえて進むべき方向性を述べた他、現在進行している教育・研究・社会貢献の取り組みや構想を説明しました。その他、近年特に注目されている生成系AIについて講演が行われ、AI&IoTセンター長の芥子先生は「テキスト生成AI・対話型AI」、経営情報学部長の馬場口先生は「画像生成AI」の最新の動向について解説しました。また、教職員を対象に授業や教育に関する話題を提供する

「FUT授業情報交換会」を、2回開催しました。オンラインで開催された情報交換会では、LMSやオンデマンド授業の作成方法、テレビ会議システムの活用方法等の話題が扱われ、今後の授業運営に役立てました。

3. 学習環境の整備とセキュリティ対策強化

学内のICT環境を安定させるために、ネットワーク機器の二重化を行い、障害発生時のダウンタイム短縮できるようになりました。また、近年では人為的な操作ミスやセキュリティ意識欠如によるセキュリティ事故が増えているため、第三者脆弱性診断を実施しました。診断の結果、セキュリティ事故を早期に発見し、本学のスコアは96点と高得点になりました。



(セキュリティスコア)

4. 更なる発展に向けた取り組み

データサイエンス並びに人工知能(AI)の普及により、様々な分野でデータ(情報)の利活用が進み、モノづくりのデジタル化の多様化により、デジタル人材が不足しています。また、超高齢社会を迎え、健康増進のための生涯スポーツの実践・指導の機会は増加し、地域社会の要望も高まっています。これを受けて、全体の定員は変更せず、各学



科の募集定員を見直し、令和 5 年 7 月に申請書類を文部科学省に提出し、令和 6 年 4 月変更について受理がなされました。

研究の深化

1. 地域活性化の役割を担う研究活動の推進

(1) 自治体との連携による活動

自治体等との連携活動を推進するために、連携協定先の自治体等との定期的な連絡会議の場を創出しました。令和 5 年度は 10 月に福井市との連携協議会、8 月と 3 月に鯖江市・鯖江商工会議所との連携協議会を、3 月には鯖江市企業交流会としてポスターセッションを開催しました。また、あわら市などと今後の定期的な連携活動につながる会議などを実施しました。

(2) 地域における新たな教育研究活動

本学 AI&IoT センターでは、株式会社ホリタ様との共同研究で文房具 POS データと X(旧 Twitter)データを元に AI とデータサイエンスを活用し、文房具に対する消費者ニーズの分析の共同研究を、福井県内企業・県観光連盟と協働し、対話型人工知能・生成 AI を用いた観光案内チャットボットを作成し、サイネージに映し出されたアバターが観光客からの質問に応答する実証実験を行いました。

2. 研究活動に集中できる環境

令和 5 年度は本学が推進する宇宙研究推進プロジェクト「ふくい PHOENIX ハイパープロジェクト」を推進していくために、あわらキャンパス 2 号館の人工衛星を運用するための通信室の整備、講演会や学会等を行うための大講義室の改修を行いました。

あわらキャンパスには、口径 3.9m のパラボラアンテナに加え、新たに口径 13.5m のパラボラアンテナを建設しています(令和 6 年春完成予定)。今後、JAXA や地元企業との共同研究等を推進するとともに、宇宙産業に貢献する人材育成の拠点とすることを目指しています。



(13.5m パラボラアンテナ)



(大講義室)

3. 積極的な研究活動の発信

石川県において「e-messe Kanazawa2023」、 「Matching HUB Hokuriku2023」に出展しました。このイベントにおいては、本学の AI&IoT センターに所属する教員の研究活動の展示や、ふくい PHOENIX ハイパープロジェクトの展示を行いました。特に「Matching HUB Hokuriku2023」に関しては、第 10 回目の開催となりましたが、本学は第 1 回目から継続して参加している実績を評価され、感謝状の贈呈を受けました。

福井県内においては「フクイ建設技術フェア 2023」に出展し、建築土木工学科の研究内容をパネル等を通して紹介しました。また、「北陸技術交流テクノフェア 2023」及び同時開催の「ふくい IT フォーラム 2023」にも出展し、本学が取り組んでいるふくい PHOENIX ハイパープロジェクトや未来ロボティクスセンターの研究活動についてのパネルや動画等を展示し、来場者の方々に研究内容を紹介しました。



地域連携の深化

1. 地域・未来志向型の教育・研究・学修活動の支援

(1) 地域と連携した教育研究活動の実施

大野市と共に取り組んできた星空保護区認定が、令和5年8月21日に実現し、本学の「夜空の明るさ調査」「光害への普及啓発活動（光害教育）」「屋外灯の光害対策」などの支援が実を結びました。これらの活動が大野市に評価され、石山志保市長から令和5年10月8日に星空保護の取り組みに対して表彰を受けました。

また、まちづくりデザインセンターと本学附属福井高等学校が協働した初めての試みとなるプロジェクトを展開しました。京福バス株式会社が運行する市内循環バス・EV すまいるバスのデザインを、進学科デザインコースの生徒と本学デザイン学科の大学生が提案しました。



(すまいるバス)

2. 地域を牽引・地域と協創できる環境の推進

本学では「世界と日本の未来を考えよう」を主題に、各界の有識者をお招きし、第一線で活躍された豊富な経験と知識を講演いただく「未来塾」を毎年開催しています。第28回目となる令和5年度未来塾講演会を金井講堂にて開催しました。内容としては、宇宙

飛行士で日本科学未来館名誉館長の毛利衛氏をお招きし、「宇宙から見た地球生命のつながり」をテーマに講演いただきました。講演では宇宙に興味を持ったきっかけや宇宙空間での体験、ISSでの実験エピソードを紹介いただきました。日本人初の宇宙飛行士としての経験に基づいたお話に、聴講者の皆さんは興味深く聞き入っていました。その他、「FUT 公開講座」を55講座開催しました。（参考：令和4年度41講座開催）



(未来塾後援会)

学生支援の充実

1. 学生の正課外活動環境の充実

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類」に移行となり、学生のための各種行事・イベントを積極的に実施しました。また、近年の物価高の影響で、経済的な負担を抱えている学生に対し、福井県共同組合連絡会様より福井県産米3キロ、レトルト食品などをセットにした食料品の提供を受けるとともに、令和6年1月1日に発生した能登半島地震において被災した学生を対象として本学独自の奨学金の支援、被災地域への学生の支援物資の提供を行いました。



(福井県共同組合連絡会贈呈式の様子)



(CAREER LEADERS CAMP の様子)

2. 主体的に活動するための学生リーダー育成プログラムの開発と運用

(1) 地域活動に必要とされる資質の育成

経営情報学部経営情報学科の地域課題解決型 PBL では学生が主体となり永平寺町の課題（子育て支援、観光、交通、林業）解決のための事業アイデアの提案を行いました。各種統計資料や町の特長を分析し、採算性を考慮した事業案を作成し、永平寺町の河合永充町長をはじめ職員の方に対してプレゼンテーションを行いました。

令和 5 年度は全学部で地域密着型（ふくい地域創成士対応）の PBL を 49 件実施し、令和 4 年度比 148%の結果となりました。

(2) 社会的自立に必要な責任感・思考力を身につけた人材の育成

学部 2 年生を対象に「CAREER LEADERS CAMP (早期就活集中講座)」を実施しました。本講座は、学生の潜在的な能力を早期に引き出し、早い段階で学生の就職活動に対する心構えや「考える力」を養い、質の高い就職を目指すことを目的としています。講義とグループワークを通して自身の強みや価値観を再発見し、リーダーが持つべき思考力などについて学びました。

3. 個人の自立に向けたキャリア形成支援

売り手市場による採用競争の激化や就活ルールの形骸化により、年々就職活動の早期化への傾向が強まっています。このような状況下においても、学生自身が卒業後のキャリアについて考え、自ら進路選択や就職活動を進めていくことが重要です。そのため、キャリアセンターでは、各学科の担当者と学科教員との情報共有・連携した支援、多種多様な企業研究会・バスツアーの実施、企業との情報交換会・個別企業面談・在職状況調査等を行いました。これらの結果、令和 5 年度の就職率は 99.2%となりました。

グローバル化の推進

1. グローバル化に対応した人材の育成

海外インターンシップでは、タイ・ベトナム・シンガポールにて実施し、計 12 名の学生が参加しました。研修終了後は、現地での成果発表会と帰国後に学内成果発表会を行い、貴重な体験内容や自身の今後の展望などを披露しました。また、学生自身が自由に行先・留学目的を設定できる Seize the day では 3 名の学生がオーストラリア・ニュージーランドで海外留学を行いました。さらに海外語学研修ではイギリスセント州ウエストデイトへ 9 名の学生が参加しました。



(海外インターンシップ研修時)

2. 教育・研究のグローバル化

タイ王国の伝統工芸に日本とタイという異文化を背景としたデザイナー達が協力し、「こよりプロジェクト」を継続的に実施してきています。本プロジェクトは、地域の伝統工芸を活かすとともに、本学学生の新しい価値観を加えることで、文化遺産を存続させることを目的としています。令和5年度は、タイ政府とラジャマンガラ工科大学ランナー校(協定校)やランナー文化工芸協会(協定団体)との共同による取り組みとして、「こよりプロジェクト2023」を実施しました。



(「こよりプロジェクト2023」の様子)

また、連携協定(MOU)では令和5年6月にハワイ大学マノア校、南台科技大学と連携協定を締結し、連携協定校が9カ国16校になりました。

大学院教育の充実

1. 大学院の更なる環境の整備

令和4年度入学生より大学院博士後期課程のカリキュラム変更を行いました。変更に伴い、3年修了時に博士論文を提出せず退学する場合、満期退学から単位取得退学的方式となりました。1年間運用し、カリキュラム内容や科目名の検証を行い、今後の博士後期課程の内容充実化に向けて議論しました。

戦略的な広報

1. 大学ブランド力を向上させる広報

令和5年4月より、HP(PCサイト・スマートフォンサイト)をリニューアルしました。「2050年大学」を大学メッセージとして、大学案内パンフレットと統一したデザインとしました。利便性の向上に向けて、サイト内の見直しも行いました。具体的にはヘッダーに情報別・利用者別のメニューを設け、今までより簡単に情報が得られるようにしました。加えて、スマートフォン・SNS普及の時代に合わせて、スクロールで多くの情報が見られるようにしました。広報物では、女子高校生向けのリーフレットを作成し、女子学生のインタビューや女子寮等の情報を掲載しました。これらを通して、女子高校生にとって学生生活がイメージしやすい内容にしました。



(リニューアルされたホームページ)



2. 受験者層の動向にあわせた入試広報活動の展開

令和4年度に引き続き、本学の研究内容や学びを通じて2050年の社会について高校生とディスカッションをする「2050年サミット」を開催しました。また、女子高校生をターゲットとした企画として、本学女子在学生・本学女子卒業生を交え「工業大学＝男子」というイメージの払拭と工業大学女子という他大学にはないキャリアへのメリットなどを女子同士で本音トークする「つどえ！未来のふくいテクガールたち！」を実施しました。以上のように、多くの高校生・保護者がオープンキャンパスに参加いただけるようイベントの企画運営を行いました。

3. 変化に合わせた迅速な広報の実行

令和4年度の各種媒体の来学率や出願率の検証を行い、令和5年度の企画立案を行いました。令和5年度は、新たに学生募集で収集したデータをAIで予測・分析した内容も活用し、各種施策の改善を行いました。また、外部だけでなく、学園内部の教職員・学生に向けても本部広報課と連携し、積極的な情報発信を行い、SNS等を活用して様々なステークホルダーに向けた迅速な広報活動を展開しました。

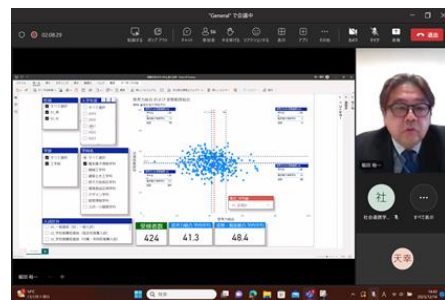
質保証と情報公開

1. 内部質保証の機能向上と教育研究活動等の改善・向上

(1) IRセミナーの開催

国の施策「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」では、高等教育が目指すべき姿として「学修者本位の教育への転換」が

示されています。その基盤として、大学における3つのポリシーに基づく教育・研究の質保証が求められています。また、3つのポリシーを達成するために行う管理運営（教学マネジメント）の構築が求められています。これらを支援する教学IR活動について、他大学に大学の現状の取り組みを紹介するとともに、他大学と意見交換を行っています。これらによって双方のIR活動の活性化を図りました。令和5年度は、大学運営への貢献を考える機会として、八戸工業大学と-IR-セミナーをオンラインで開催しました。



（八戸工業大学とのIRセミナーの様子）

(2) 教職課程における自己点検評価の実施

教育職員免許法施行規則の改正（令和4年4月）により、教職課程を設置する全ての大学において自己点検・評価の実施と結果の公表が求められています。これを受けて本学教職課程における自己点検・評価を実施しました。

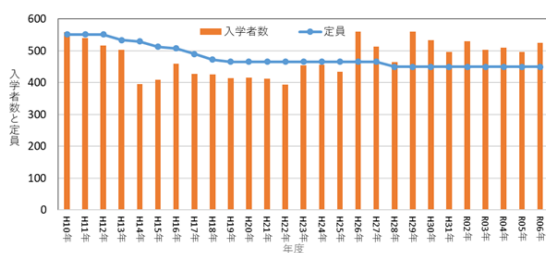
今後は大学全体の自己点検評価と並行して恒常的な点検が行えるよう、自己評価委員会が中心となり活動していきます。



3. 福井工業大学附属福井高等学校・福井中学校

1. 生徒募集戦略会議の充実と高学力受験者数・入学者数の増加

1年間で計23回の生徒募集戦略会議を実施し、入試に関係すること、CMやパンフレット等の広告に関すること、生徒募集イベントに関すること、特待生制度に関すること、福井中学校からの内部進学に関することなど、1年間の生徒募集を戦略的に実施するために様々な内容について議論しました。下図は入学者数と定員の年度別の推移を示しています。平成26年度以降、11年連続で定員を超えています。また、令和6年度入試の出願者数は888名と令和5年度より33名増となりました。県立上位校以外が全入に近い状況下で、授業料無償化の対象拡大に伴う私学人気の機運に乗ることができたと考えています。さらに学業特別特待生、学業特待生の合格者数は、それぞれ27名、74名と前年に比べそれぞれ17名増、26名増と大幅に増加し高学力入学者も増加しました。



○入学者数の推移

2. 中高一貫教育のさらなる加速

中高一貫教育を充実させるために、行事の企画や中高縦割り活動など中高生合同で活動する機会を多く提供しました。

○吉本興業(株)様とのコラボプロジェクト

吉本興業(株)と金井学園のコラボプロジェクトとして、福井県住みます芸人の飯めしあがれこにお単独ライブ「こにックスまつり」の企画・運営に参加しました。50名の中高生がイベントのPR、制作、運営や舞台への出演などで活躍しました。



○こにックスまつり舞台裏

3. 国際交流プログラムの継続

SGLI プログラムは、コロナ禍のため、令和4年度、令和5年度は中止となりました。SGLI の代替となる、他国の生徒との交流を図れるプログラムの参加を検討し、令和5年度は Asian Students Exchange Program (ASEP) に参加しました。アジア各国から大学生、高校生が集い、割り当てられた学校と協働してプレゼンテーションをします。本校は高雄市立仁武中高がパートナースクールで、「SDGs に関わる人権を守るためには」という今年のテーマのもと、出発前からオンラインミーティングを重ね、協働して発表することができました。日本の生徒も台湾の生徒も達成感を感じていました。また Australia 姉妹校への短期留学は、令和5年度は10月22日～31日の10日間、



10名の高校生が参加しました。



○ASEPの様子

4. 校内における生徒の安心・安全に関する環境整備

○階段の手すり、防護ネットの設置

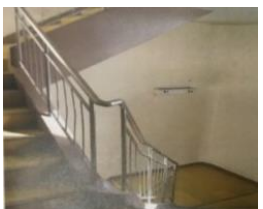
中学校および高校校舎の階段には、一部を除き手すりがありませんでした。転落事故防止や足を負傷しているなど歩行が困難な場合の昇降補助を目的として、設置しました。また、時計塔の階段が5階まで吹き抜けとなっており、万が一生徒が手すりを越えて転落すると、そのまま1階まで落ちてしまい大事故につながる可能性があります。そのため、確実に生徒を支え転落を防止することができるよう、各階に安全ネットを設置しました。



○施行前



○施行後



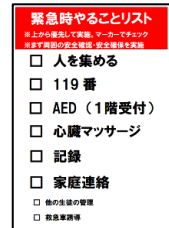
○施行前



○施行後

○緊急時の対策に関する取り組み

緊急事態が発生した場合、それに対応する教職員の的確な判断が求められます。そこで、学校現場や災害対応を行う自治体等で、緊急事態発生時に迅速で的確な救命活動を行うために使用されている「アクションカード」に注目し、本校独自のアクションカードの作成・整備を行いました。また、中学・高校の養護教諭と中学校の生徒・教職員で緊急時対応についての資料動画を作成し、それを利用して緊急時対応についての教職員研修を行いました。



5. 中高大連携に向けた取り組み

福井高校特別進学科の1,2年生と福井中学校の全校生徒を対象に、福井中学・高校出身で、東京大学法学部3年生の岩佐陸生さんによる講演会を実施しました。講演後の質疑応答では生徒から多くの質問があり、「この講演により志望校選びの方法や受験勉強の取り組み方の参考になった」、「自分も岩佐さんを目指して学習に励み、東京大学合格を目指したい」という前向きな感想が多く聞かれました。講演会を開催した目的である金井学園で学ぶことの魅力を伝え、生徒たち一人一人の夢を描き、夢を語り、夢を創る心を育むことができたと感じています。





4. 福井県医療福祉専門学校

1. 統一された広報体制の構築

教職員全員で高校でのガイダンスやオープンキャンパスの企画運営、当日の対応をすることにより、教員の学生募集に対する意識が大きく変わりました。各学科・コースとも積極的に話し合いを持ち、色々なアイデアを提案し実施しています。

日本語学科では、「外国人介護福祉士育成制度のご案内」を作成し、介護に興味のある優秀な学生に対し、日本語能力 N2 レベルを修得させ、県と施設と連携を取りながら「こども・介護学科」に進学するというスキームを施設の方対象に説明会を年に数回実施しています。説明会に参加した施設の方からは、学生の日本語能力に対して高評価をいただいています。



2. 学生支援の充実

専門学校は専門分野の知識、技術を身につけるだけでなく社会人として地域に貢献する人に成長することも大切です。本校では社会性を養うために外部の専門家に講師依頼をしています。学生の身近な問題をテーマとして、留学生にも理解しやすいように話していただいております、学生は熱心に受講しています。

また、介護コースの学生は、バリアフリー展 2024（第 30 回 高齢者・障がい者の快適な生活を提案する総合福祉展）の見学会を実施し、最新式の福祉用具を体験すること

で、福祉用具への知識を高めました。

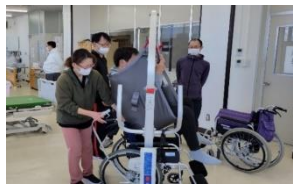
夏の福井フェニックス祭り「YOSAKOI イッチョライ大会」では、吉本興業との連携により、西武前の中央通りで、地域の方達の応援を受けながら、こども・介護学科、日本語学科 1 年生が一体となり演舞を披露しました。皆の笑顔がとても印象的でした。



3. 受講生の満足度向上

社会事業部の受講生には、年々、外国籍の方、高齢の方、身体、知的、精神疾患をもつ方が増加しています。できる限り多様な受講生に対応し、資格を取得していただくため、様々な演習方法や教材の開発に努めています。また、県や市からの委託訓練を積極的に受け、受講者数の増加も目指しています。今年度は耐圧分散型マットレスの購入や、最新式の福祉用具をレンタルし、より実践的な実習を行い、福祉用具への理解も深めています。受講生のニーズに応じた内容を模索し、個々へのより手厚い対応することで、76 歳の実務者研修受講生が介護福祉士国家試験に合格されました。

また、介護福祉士国家試験の模擬試験開催も実施しました。試験直前の不安を解消できたとの意見が多くみられました。





5. 福井製菓専門学校

1. 教育方法・教育体制の充実

製菓技術を競うコンクールにおいて、県大会（福井県デコレーションケーキコンテスト）マジパン部門で上位を独占（金賞、銀賞、銅賞）。また、全国大会（ジャパンケーキショー東京）のマジパン部門で6作品、バタークリーム部門で4作品の合計10作品と過去最多出品となり、内1作品が開校以来初の受賞となる銀賞を受賞しました。実施されるコンクールに向け、製菓技術サークルの立ち上げや、バタークリーム部門で多数受賞歴のある菅原氏に特別講師を依頼するなど、様々な対策を講じており、それらが実を結ぶ結果となりました。



2. キャリア研修

即戦力の育成、輩出を意義とする専門学校として、実践力を重視した研修の充実に取り組んでいます。特に実際に販売を伴う研修として令和5年度よりベジテラス（喜ね舎内カフェ）研修を開始し、製造・販売の両方の面で生徒の実践力を伸ばしました。本研修では学校で制作した洋菓子4種類、

合計約120個を製造し、ベジテラス内で販売、またそれに伴う接客等の業務を行うものです。実店舗を利用した研修で、より実践に近い経験を積むことができ、実習室では得られない学びを得られ、本研修中には地域の方に多くご来店いただきました。



3. 地域貢献

本校は地域と相互にパートナーとして、連携・協働した取り組みで次世代を支える人材育成に取り組んでいます。今年度は本校の特色（製菓）を活かした地域貢献として、クリスマスケーキ寄付による貧困支援や、製菓実習の提供などを実施しました。菓子を通じた地域貢献は、人々を癒し、笑顔を生み出し、子どもから大人にまで広く愛されると考えており、今後も次世代の育成に寄与できる学校

になるよう、積極的に展開していきます。

「食」と密接に関係するとされる貧困解決や、地産地消の促進、伝統技術・文化の継承など様々な課題に対し、地域の助けとなれるよう、各所と連携して取り組んでいます。





6. 法人本部

1. インナーブランディングの強化

インナーブランディング強化の取り組みの一つとして、各学校の活躍をまとめたスライドを作成し、職員会議の前に放映しました。



2. 戦略的広報の構築

北陸新幹線福井開業日である令和6年3月16日に北國新聞および信濃毎日新聞に大学の全5段フルカラー広告を掲載しました。「大気圏も、通学圏も。福井が近い」というキャッチコピーで、北信越エリアへの認知度向上および本学が通学可能圏内であることをアピールしました。



3. 階層別研修の実施

自分たちの階層に必要とされる能力・身につけるべき能力について自ら考え学ぶ意識をつかむこと、自身の意見を発信し共有することで、組織活性化につながる協働意識を高めることを目的として「階層別研修」を実施し、一般事務職員70名、管理職15名が参加しました。

今年度導入したサブスクリプション型研修システム“e-JINZAI for university”



を活用し、同世代、同階層で構成したグループ毎に、今の自分たちに必要な能力、学びたい内容の研修を受講し、グループワークと学びの共有を行いました。職員一人ひとりが日頃から自身の意見を積極的に発信・共有することで、組織活性化につながることを期待しています。

4. 学園の求める人財の確保

年々早期化する就職活動に対し、新卒学生確保に向けインターンシップを実施しました。5日間の日程で実施した夏季には10名、対面とオンラインで実施した冬季には9名のインターン生が参加し、各部署での業務体験やグループワークを行いました。研修成果発表会では目先の課題だけに捉われず、将来を見据えた中長期的視点から新鮮かつ自由な発想で様々なアイデアが提案され、現役職員にとっても新たな発見や気づきを得る機会となりました。

5. 情報提供満足度の向上

定期購読している新聞10紙の中から学園および各学校の記事を教職員が閲覧できるよう広報課内にスペースを設けました。また、新たに大学1号館1階にFUT Stationを設け、学生の団らんや教職員の打ち合わせの場として活用しています。室内では常時、BS よしもと「ロングコートダディのつるつるいっぱい学園」を放映しています。





6. 海外拠点としての活動

ASEAN 事務所は平成 25 年 4 月にネーション大学バンナーキャンパス内(当時)に開設されてから 10 周年を迎え、令和 5 年 4 月 21 日にホテルニッコーバンコクで 10 周年記念式典を開催しました。式典にはタイ教育省、在タイ日本国大使館、海外インターンシップ事業でお世話になっている企業、タイ国内大学協定校・高校姉妹校、各種教育関係団体等から総勢 104 名が参加しました。皆様への謝意表明と今後の更なる関係強化を目指し、この先 10 年のコロナ後の新時代を見据え、活動を開始しました。

7. 学園施設・設備の新設・改修

更なる女子学生の獲得を目指し、女子学生の環境充実を図るべく、大学 2 号館地下 1 階の食堂の一角に、女子学生専用ラウンジを新設しました。飲食可能なスペースとなっており、個人やグループで利用できる施設です。

また、屋外には全学生・生徒の憩いの場を提供するた



めテラス席を併設しました。

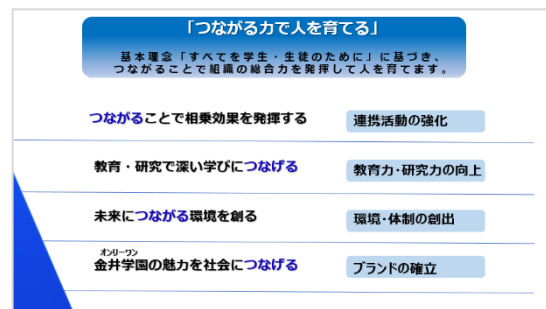
あわらキャンパスでは、パラボラアンテナ設置に伴い、講義やイベント等で利用できるよう、あわらキャンパス 2 号館 2 階大講義室を改修しました。あわらキャンパスを一望できる景観はそのままに内装を一新するとともに、プロジェクターやコンセン卜の増設を行い、機能面も充実しました。

大学では、令和 4 年度に引き続き、トイレ改修工事を実施しました。令和 5 年度は

大学 1 号館のトイレについて床の乾式化や洋式便器への入れ替え改修に加え、女子学生に向けた設備充実化を図りました。また、個室を増やしスペース確保のため一部内装をリニューアルしました。

8. 第 4 次中期計画の策定

令和 6 年度より開始となる第 4 次中期計画に向け、各部門の若手教職員を中心に策定委員会を設置し、基幹となる中期ビジョン、戦略分野の策定を行いました。また、それぞれの部門で小委員会を設置、策定委員会の方針の下、確実な進捗検証、実施計画達成に向け、目標の数値化を行いました。



9. 中期計画最終年度としての検証

第 3 次中期計画最終年度として、これまでの 5 か年計画の総括検証を行いました。コロナ禍が大きく影響した第 3 次中期計画となり、年次進行の中で大幅に計画を見直すなど臨機応変な対応を求められた中期計画になりました。そのため、KGI、実施計画の達成状況は満足とは言えない部分も多くありますが、難しい状況の中でも形を変えて実施することができた計画も多く見受けられました。

第 4 次中期計画に向けて、これまでの計画を見直すことでさらによい事業計画が遂行されるよう IR 活動も積極的に支援していきたいと考えています。



7. 主な事業の目的・計画及びその進捗状況

【法人本部】

- ・ ASEAN 事務所開設 10 周年記念式典の開催
- ・ 大学 2 号館地下 1 階食堂に女子学生専用ラウンジを新設
- ・ あわらキャンパス 2 号館 2 階大講義室を改修
- ・ 第 4 次中期計画の策定

【福井工業大学】

- ・ 自治体等との連携活動の推進
- ・ あわらキャンパスに 3.9m パラボラアンテナ新設
- ・ タイ政府とラジャマンガラ工科大学ランナー校(協定校)やランナー文化工芸協会(協定団体)との共同取り組みで、「こよりプロジェクト 2023」として実施
- ・ 「2050 年大学」を大学メッセージとして大学 HP をリニューアル

【福井高等学校・福井中学校】

- ・ 吉本興業株式会社とのコラボプロジェクト「こにックスまつり」企画運営に参加
- ・ Asian Students Exchange Program (ASEP)に参加
- ・ Australia 姉妹校への短期留学
- ・ 中学校および高校校舎、階段の手すり、防護ネットの設置
- ・ 緊急事態発生時に迅速で的確な救命活動を行うために使用する、本学独自のアクションカードの作成・整備

【福井県医療福祉専門学校】

- ・ 教職員全員でオープンキャンパスを企画運営
- ・ 吉本興業と連携し、福井フェニックスまつり「YOSAKOI イッチョライ大会」で演舞を披露
- ・ 介護福祉士国家試験の合格

【福井製菓専門学校】

- ・ ジャパンケーキショー東京で開校初となる銀賞を受賞
- ・ 商品の販売を伴う研修の実施
- ・ クリスマスケーキの寄付による貧困支援



8. 施設等の状況

主な施設設備の状況は次のとおりです。

所在地	施設等	面積等(うち所有地)	帳簿価格(千円)	概要
福井県福井市 (福井キャンパス)	校地	73,076 m ² (40,685 m ²)	2,623,230	大学、高校、中学校及び法人本部が利用している
	校舎等	74,641 m ²	13,213,256	
福井県福井市 (角折校地)	校地	15,827 m ² (13,020 m ²)	243,476	クラブ活動に利用している
	校舎等	556 m ²	36,463	
福井県あわら市 (あわらキャンパス)	校地	159,387 m ² (105,603 m ²)	1,138,688	大学の学部の一部とクラブ活動に利用している
	校舎等	9,215 m ²	1,337,951	
福井県吉田郡 永平寺町	校地	121,085 m ²	138,740	大学および高校のグラウンドとして利用している
	校舎等	3,786 m ²	851,050	
福井県福井市 (高木校舎)	校地	2,923 m ² (2,923 m ²)		福井県医療福祉専門学校が利用している
	校舎等	1,884 m ²	200,307	
福井県福井市 (松本校舎)	校地	1,222 m ² (1,222 m ²)	83,228	福井県医療福祉専門学校と福井製菓専門学校が利用している
	校舎等	1,926 m ²	87,230	
福井県福井市 (成和校舎)	校地	m ²		福井県医療福祉専門学校が利用している
	校舎等	504 m ²	16,685	
福井県坂井市 (第三体育館)	校地	1,049 m ² (1,049 m ²)	3,254	福井県医療福祉専門学校と福井製菓専門学校が利用している
	校舎等	815 m ²	4,947	

(令和6年3月31日現在)

(令和5年度 実績)

- ・福井工業大学 3.9m 級パラボラアンテナ設置 (令和6年3月完成)
- ・学園レストラン女子学生専用ラウンジ及びテラス新設工事 (令和6年3月完成)
- ・大学1号館トイレ改修工事 (令和5年6月完成)
- ・福井工業大学あわらキャンパス2号館2階大講義室改修工事 (令和5年9月完成)
- ・福井高等学校クリエイティブコモンズ(元被服室)改修工事 (令和5年5月完成)
- ・学園レストラン食器洗浄機入替工事 (令和5年8月完成)

(令和6年度 事業)

- ・福井工業大学 13.5m 級パラボラアンテナ整備 (令和6年6月予定)
- ・金井講堂吊り天井耐震改修工事 (令和6年9月予定)
- ・大学6号館トイレ改修工事 (令和6年8月予定)
- ・あわらキャンパス監視カメラ新規設置 (令和6年10月予定)

○ 耐震化率 97.76%

- 大学 100.00%
- 中高 97.13%
- 専門学校 79.42%



1. 決算の概要

1-1. 資金収支計算書

【概要】

資金収支の規模は、前年度比 769 百万円減の 14,022 百万円となりました。

まず、収入の部については、主たる収入である学生生徒等納付金収入において、前年度比 50 百万円減の 3,721 百万円となりました。また、補助金収入では、前年度比 313 百万円減の 947 百万円となりました。

支出の部については、教育研究経費が前年度比 86 百万円増の 2,052 百万円となりました。なお、今年度施設関係支出は前年度比 868 百万円減の 775 百万円、設備関係支出は前年度比 126 百万円減の 273 百万円となりました。

【経年比較表】

(単位：千円)

収入の部	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
学生生徒等納付金収入	3,742,829	3,734,450	3,845,330	3,770,736	3,720,670
手数料収入	74,923	60,618	44,819	45,285	39,194
寄付金収入	94,849	90,829	184,906	112,347	98,498
補助金収入	1,005,655	1,071,471	1,143,426	1,260,092	946,679
資産売却収入	303,400	1,291	1,162	760	73,674
付随事業・収益事業収入	64,174	46,697	50,696	96,746	63,555
受取利息・配当金収入	105,052	105,804	183,987	170,401	175,789
雑収入	84,492	113,042	106,168	91,516	127,170
借入金等収入	0	0	2,000,000	0	0
前受金収入	481,868	430,625	480,410	454,255	449,660
その他の収入	8,488,114	7,885,748	7,233,462	6,409,406	6,447,196
資金収入調整勘定	△ 772,125	△ 682,381	△ 783,618	△ 637,422	△ 630,030
前年度繰越支払資金	1,202,034	1,581,160	1,930,927	3,106,788	2,510,282
収入の部合計	14,875,265	14,439,354	16,421,675	14,790,909	14,022,338

支出の部	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人件費支出	2,474,605	2,502,254	2,677,032	2,796,917	2,810,509
教育研究経費支出	1,622,533	1,583,513	1,739,954	1,965,812	2,052,197
管理経費支出	611,429	614,771	655,193	813,114	859,934
借入金等利息支出	0	0	2,635	5,581	4,684
借入金等返済支出	0	0	95,200	285,600	285,600
施設関係支出	245,927	269,593	1,023,206	1,643,012	775,119
設備関係支出	311,351	333,758	640,380	398,818	272,949
資産運用支出	6,252,351	5,753,202	5,253,183	2,551,703	3,489,151
その他の支出	2,053,850	1,824,503	2,111,623	2,473,160	2,399,123
資金支出調整勘定	△ 277,941	△ 373,166	△ 793,517	△ 653,091	△ 564,179
翌年度繰越支払資金	1,581,160	1,930,927	3,016,788	2,510,282	1,637,251
支出の部合計	14,875,265	14,439,354	16,421,675	14,790,909	14,022,338



1-2. 事業活動収支計算書

【概要】

設置する大学および高等学校における定員の充足、ならびに学園全体での経費削減に努めておりますが、教育活動収支差額の前年度比 618 百万円増、教育活動外収支差額の前年度比 11 百万円増、よって経常収支差額は前年度比 607 百万円増（△1,886 百万円）となりました。

また、特別収支差額は、640 百万円増の 690 百万円の計上となりました。よって、

基本金組入前当年度収支差額は、前年度比 33 百万円減の△1,197 百万円、当年度収支差額は前年度比 660 百万円減の 2,196 百万円の支出超過を計上し、翌年度繰越収支差額は 18,065 百万円の支出超過となりました。

事業活動収入計は前年度比 199 百万円増額となりました。

(単位：千円)

【経年比較表】

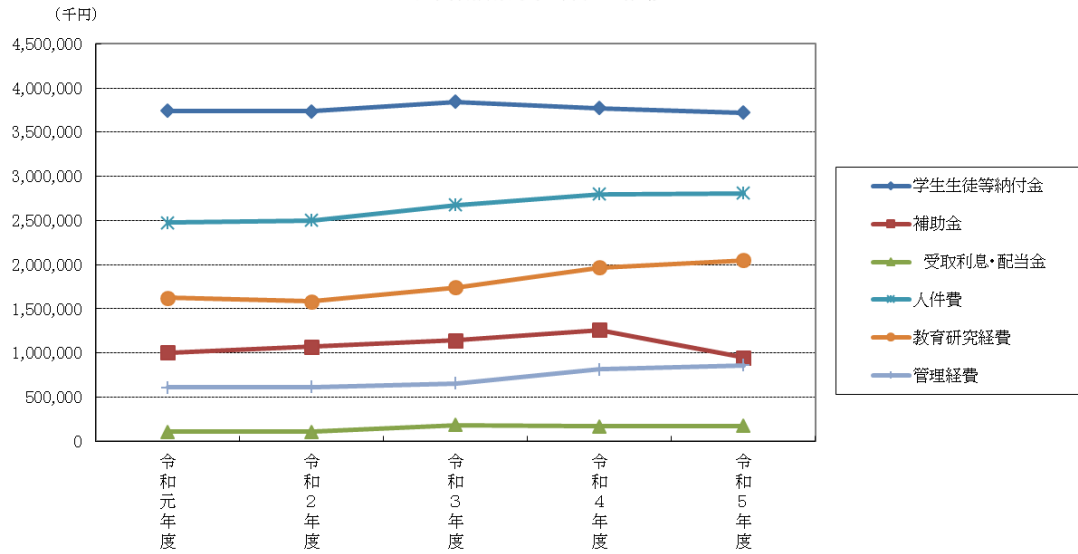
科目		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	3,742,829	3,734,450	3,845,330	3,770,736	3,720,670
	手数料	74,922	60,618	44,819	45,285	39,194
	寄付金	94,849	90,829	185,106	112,686	99,257
	経常費等補助金	955,866	1,037,843	1,098,749	1,225,370	946,679
	付随事業収入	63,754	46,459	50,561	96,426	63,794
	雑収入	88,992	129,182	105,573	100,726	125,348
	教育活動収入 計	5,021,215	5,099,381	5,330,138	5,351,229	4,994,942
	人件費	2,478,838	2,668,582	2,717,251	2,824,316	2,891,348
	教育研究経費	2,420,844	2,399,528	2,536,939	2,784,343	2,853,365
	管理経費	964,233	979,086	1,108,200	1,178,269	1,304,953
教育活動支出の部	徴収不能額等	9,742	0	578	5,667	4,528
	教育活動支出 計	5,873,658	6,047,197	6,362,969	6,792,595	7,054,194
教育活動収支差額		△ 852,443	△ 947,815	△ 1,032,830	△ 1,441,366	△ 2,059,252
科目		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	105,052	105,804	183,987	170,401	175,789
	その他の教育活動外収入	400	168	595	0	1,822
	教育活動外収入 計	105,452	105,972	184,582	170,401	177,611
	借入金等利息	0	0	2,635	5,581	4,684
	その他の教育活動外支出	0	1	0	3,153	0
	教育活動外支出 計	0	1	2,635	8,734	4,684
	教育活動外収支差額	105,452	105,971	181,947	161,667	172,927
経常収支差額		△ 746,991	△ 841,845	△ 850,884	△ 1,279,699	△ 1,886,325
科目		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
特別収支の部	資産売却差額	11,549	141,197	372,211	92,240	665,735
	その他の特別収入	64,436	47,119	370,889	49,071	23,860
	特別収入 計	75,985	188,316	743,100	141,311	689,595
	資産処分差額	6,549	11,708	14,826	91,616	72
	その他の特別支出	431	0	1,624	0	0
	特別支出 計	6,980	11,708	16,450	91,616	72
	特別収支差額	69,005	176,607	726,649	49,695	689,523
基本金組入前当年度収支差額		△ 677,985	△ 665,237	△ 124,235	△ 1,230,005	△ 1,196,802
基本金組入額合計		△ 297,420	△ 575,129	△ 1,935,340	△ 1,626,282	△ 999,240
当年度収支差額		△ 975,405	△ 1,240,366	△ 2,059,575	△ 2,856,297	△ 2,196,042

(参考)

事業活動収入計	5,202,653	5,393,670	6,257,821	5,662,942	5,862,148
事業活動支出計	5,880,638	6,058,906	6,382,054	6,892,945	7,058,950



主な事業活動収支科目の推移



1-3. 貸借対照表

【概要】

本年度の資産総額は、前年度比 1,529 百万円減の 32,093 百万円となりました。

資産の部においては、学園施設・設備の新設・改修を実施しました。

負債の部においては借入金の返済のほか、未払金の減少等により、負債総額は、前年度比 332 百万円減の 3,727 百万円となりました。

【経年比較表】

(単位：千円)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
固定資産	31,634,748	30,798,803	31,951,515	30,904,091	30,207,964
流動資産	1,807,266	2,181,694	3,332,028	2,718,013	1,885,081
資産の部合計	33,442,014	32,980,497	35,283,543	33,622,104	32,093,045
固定負債	985,935	1,138,206	2,828,242	2,556,913	2,348,235
流動負債	874,058	925,508	1,662,752	1,502,647	1,379,068
負債の部合計	1,859,993	2,063,714	4,490,994	4,059,560	3,727,303
基本金	41,295,163	41,870,292	43,805,632,236	45,431,914	46,431,154
繰越収支差額	△ 9,713,142	△ 10,953,509	△ 13,013,084	△ 15,869,371	△ 18,065,412
純資産の部合計	31,582,021	30,916,783	30,792,548,585	29,562,544	28,365,742
負債及び純資産の部合計	33,442,014	32,980,497	35,283,543	33,622,104	32,093,045



2. 主な財務比率比較

2-1. 主な財務比率比較

比 率	計算式	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	48.4%	51.3%	49.3%	51.2%	54.3%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	66.2%	71.5%	70.7%	74.9%	75.5%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	47.2%	46.1%	46.0%	50.4%	55.2%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	18.8%	18.8%	20.1%	21.3%	25.1%
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	-13.0%	-12.3%	-2.0%	-21.7%	-20.6%
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入－基本金組入額}}$	119.9%	125.7%	147.6%	170.8%	104.2%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	73.0%	71.7%	69.7%	68.3%	71.9%
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	1.8%	1.7%	3.0%	2.0%	2.1%
経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経常収入}}$	1.9%	1.7%	3.4%	2.0%	1.9%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	18.4%	19.2%	17.6%	21.6%	16.2%
経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	18.6%	19.9%	19.9%	22.2%	18.3%
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	5.7%	10.7%	30.9%	28.7%	15.8%
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	19.6%	19.5%	17.7%	17.4%	17.7%
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	-14.6%	-16.6%	-15.4%	-23.2%	-36.4%
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	-17.0%	-18.6%	-19.4%	-26.9%	-41.1%

- 「学校法人会計基準」に基づく事業活動収支計算書を用いて、表に示された計算式により、比率を算出しました。

※1 経常収入 = 教育活動収入計 + 教育活動外収入計

※2 経常支出 = 教育活動支出計 + 教育活動外支出計



3. その他

3-1. 有価証券の状況

(単位：千円)

		(令和6年3月31日)		
		貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	有価証券	293,038	363,498	70,460
	減価償却引当特定資産	1,352,846	1,813,232	460,386
	施設設備拡充引当特定資産	863,321	1,028,651	165,330
	退職給与引当特定資産	592,589	768,041	175,452
	第3号基本金引当特定資産	1,000,000	1,138,133	138,133
	計	4,101,795	5,111,556	1,009,761
	(うち満期保有目的債券)			
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	有価証券	43	43	0
	減価償却引当特定資産	875,904	813,689	△ 62,215
	施設設備拡充引当特定資産	475,000	452,343	△ 22,658
	退職給与引当特定資産	265,566	255,175	△ 10,392
	教育研究基金	120,660	119,352	△ 1,308
	計	1,737,173	1,640,601	△ 96,572
	(うち満期保有目的債券)			
合 計		5,838,968	6,752,157	913,189
(うち満期保有目的の債券)				
時価のない有価証券		1,910		
有価証券合計		5,840,878		

種類	(令和6年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時価	差額
株 式	335,070	448,489	113,419
投資信託	2,259,228	2,617,116	357,888
その他	3,244,669	3,686,552	441,882
計	5,838,968	6,752,157	913,189
時価のない有価証券	1,910		
有価証券合計	5,840,878		

3-2. 借入金の状況

(令和6年3月31日現在)

借入先	借入残高	利率	借入期間	担保等
福井銀行	1,619,200千円	0.32%	7年0か月	なし

3-3. 学校債の状況 . . . なし



3-4. 寄付金の状況

○教育振興寄付金（大学：1口5万円、高等学校・中学校・専門学校：1口3万円）

令和5年度 募集実績

・大学	2,381 千円
・高等学校	2,650 千円
・中学校	770 千円
・専門学校	60 千円

○一般寄付金（主なもの）

・株式会社山田組	10,000 千円
・株式会社C&B	10,000 千円
・株式会社メディアミックス	1,800 千円
・株式会社福井銀行	1,000 千円
・日本中央競馬会	1,000 千円
・有限会社コピーエクスプレス	300 千円
・その他 PTA 寄付金、卒業寄付金	

3-5. 補助金の状況

【福井工業大学】

・令和5年度私立大学等経常費補助金	86,365 千円
・令和5年度授業料等減免費交付金	97,589 千円

【福井工業大学附属福井高等学校】

・令和5年度私立高等学校教育振興補助金	443,532 千円
・令和5年度私立高等学校等就学支援事業補助金	144,057 千円

【福井工業大学附属福井中学校】

・令和5年度私立中学校教育振興補助金	53,863 千円
--------------------	-----------

【福井県医療福祉専門学校・福井製菓専門学校】

・令和5年度高等教育修学支援事業補助金	3,960 千円
・令和5年度私立専修学校等教育振興補助金	3,497 千円



3-6. 収益事業の状況

収益事業として、不動産賃貸業及び福井県立馬術競技場（福井ホースパーク）及び若狭町みさき漁村体験施設（みさきち）の指定管理を行っており、その状況は以下のとおりです。

【貸借対照表】

（単位：千円）

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
流動資産	337,191	388,819	405,083	147,325	87,914
固定資産	787,601	816,975	802,078	772,394	742,711
資産合計	1,124,792	1,205,795	1,207,160	919,720	830,625
流動負債	15,008	30,918	17,610	12,631	11,562
固定負債	840	3,700	3,700	3,700	3,700
負債合計	15,848	34,618	21,310	16,331	15,262
純資産合計	1,108,943	1,171,176	1,185,851	1,185,851	815,363
負債・純資産合計	1,124,791	1,205,795	1,207,160	1,207,160	830,625

【損益計算書】

（単位：千円）

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業収入	76,970	82,976	89,527	91,815	94,590
補助金収入	0	0	0	0	0
一般管理費	71,327	73,102	76,574	82,067	183,356
営業利益	5,643	9,874	12,953	9,747	△ 88,767
営業外損益	1,622	1,463	1,721	7,791	1,357
経常利益	7,265	11,337	14,674	17,538	△ 87,410
特別損益	△ 75	0	0		
当期純利益	7,190	11,337	14,674	17,538	△ 87,410

3-7. 関連当事者との取引の状況

会社等の名称	資本金等	出資割合	取引の内容	摘要
株式会社 C&B	3,000千円	48%	不動産賃貸業務委託、人材派遣契約の締結	理事長が52%出資。委託費180百万円支払い。

4. 来年度以降の展望

第3次中期計画の最終年度となった令和5年度は、財務5ヵ年計画に基づき、当初予算を令和4年度の最低10%減や執行率に基づいた経常費予算の配布等、より厳格な予算編成を実施しました。第4次中期計画の開始となる令和6年度は、新たな5ヵ年計画の達成に向けて、メリハリのある予算計画・執行による教育環境の充実、学生・

生徒へ更に質の高いサービスの提供を実現するとともに収入の安定化や、支出の適正化による収支均衡を目指し、改善に努めてまいります。



金井学園

福井工業大学

福井工業大学附属

福井高等学校

福井工業大学附属

福井中学校

福井県医療福祉専門学校

福井製菓専門学校